

東京藝術大学創立130周年記念事業 「チャレンジする東京藝大～感動を呼ぶ芸術～」 ～2020年に向け、「オール東京藝大」で世界を牽引する芸術発信拠点へ～

東京藝術大学（住所：東京都台東区、学長：澤 和樹）は本年10月4日をもって、創立130周年を迎えます。本年は創立130周年を記念して、「チャレンジする東京藝大～感動を呼ぶ芸術～」をコンセプトに、様々な記念事業を開催します。

本学は、明治20年の創立以来、我が国の芸術文化の継承・発展に寄与するとともに国際社会を志向した教育研究を展開し、国際舞台で活躍する数多の芸術家や教育者、研究者を育成・輩出することを通じて、世界屈指の総合芸術大学としての地位を確立してまいりました。

本事業では、本学がこれまで培ってきた成果と精神を発信するとともに、学生及び教職員、卒業生、保護者などの関係者を含めた「オール東京藝大」体制を構築します。また、2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックに向け、本事業を新たな芸術文化創造の出発点として位置づけ、記念事業を通じて日本の芸術文化を広く世界へ発信してまいります。

主なプロジェクトとして、3つのプロジェクトを柱に展開いたします。まず、「NEXT GEIDAI TEN」プロジェクトでは、10年後の東京藝大のあるべき姿を提示し、達成するためのアクションプランを展開します。次に、「5大陸アーツ・サミット」プロジェクトでは、世界5大陸を代表する芸術大学の学長らを招待し、これからの芸術のあるべき姿や社会に果たすべき役割等を議論します。本学は現在23カ国・地域、64大学・機関と交流協定を結んでおりますが、芸術教育の場において世界を牽引するべく、さらなるグローバル化に向けた戦略的ネットワークの基盤を整備してまいります。最後に、「GEIDAI 130 ARTS」プロジェクトは、第一線で活躍する卒業生、在校生、教員など幅広い関係者の参画を募り、個々に行われる展覧会や演奏会、個展などを「東京藝大のチカラ」として集約するものです。プロジェクトを通じて本学の教育研究の成果を発表し、新しい芸術大学の在り方を広く世界に発信してまいります。

また、創立130周年記念事業を推進するにあたり、俳優・伊勢谷友介さん、狂言師・野村萬斎さん、日本画家・松井冬子さん、ヴァイオリニスト・諏訪内晶子さんなど、本学に関係し、各界の第一線で活躍する方々を公式アンバサダーとして迎え、共に創立130周年を盛り上げてまいります。

創立130周年記念事業の詳細につきましては別紙資料をご覧ください。



左から、東京藝術大学副学長 岡本 美津子、ヴァイオリニスト 諏訪内 晶子氏、
東京藝術大学学長 澤 和樹、日本画家 松井 冬子氏、東京藝術大学副学長 松下 功

＜本件に関するお問い合わせ先＞
東京藝術大学130周年記念事業PR事務局（共同PR内） 津原／永福／仙波
TEL：03-3571-5258 / FAX：03-3574-0316

「チャレンジする東京藝大～感動を呼ぶ芸術～」

【東京藝大130周年事業の基本的な考え方】

創立130周年という節目に、120周年で培った「出会いや交流」を通じて、更なる「芸術の拠点化」を目指すこととし、芸術の魅力や素晴らしさ、芸術大学の価値・存在意義を広く国内外に発信するとともに、「本学のブランド力の向上」を図ります。

また、国際プレゼンスの更なる向上を図るとともに、学生及び教職員、卒業生、保護者等の関係者を含めた“オール東京藝大”体制を構築いたします。

さらに、「芸術の拠点化に伴う高度芸術研究施設」の設置や「安全・安心なキャンパス」を計画的に整備するため、施設整備開発プロジェクトを実施いたします。

【東京藝大130周年事業の主なプロジェクト】

① 「NEXT GEIDAI TEN」プロジェクト

10年後のビジョンとして、東京藝大のあるべき姿を提示するとともに、そのためのアクションプランを展開します。

② 「5大陸 アーツ・サミット」プロジェクト

2020年東京大会に向けた戦略的グローバル・ネットワークの基盤整備を行います。

③ 「GEIDAI 130 ARTS」プロジェクト

本学の教育研究の成果を国内外に広く発信、130周年事業に卒業生、在校生、教員、その他関係者が幅広く参画する、3つのプログラムを一年にわたり展開します。

●スペシャルプログラム

130周年に限定し、特別に企画した展覧会・演奏会等公式プログラム

●公式プログラム

各学部、美術館などが130周年にあたり企画した展覧会・演奏会等

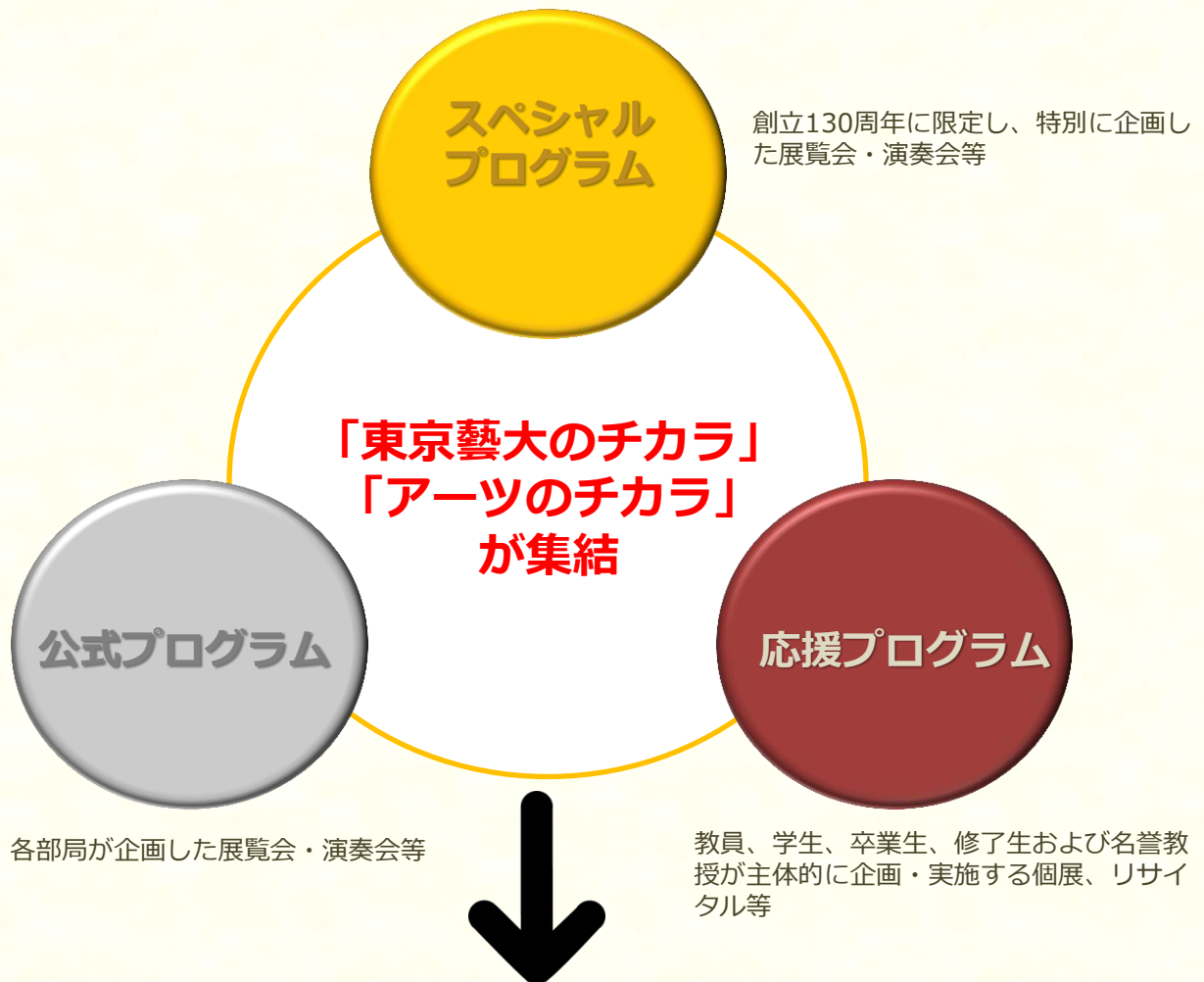
●応援プログラム

教員、学生、卒業生、修了生及び名誉教授が主体的に企画・実施する個展、リサイタル等

その他、卒業生、修了生、留学生等のネットワーク構築のためのプログラムやキャンパス環境の整備・リニューアル、SNS等情報発信の整備等も併せて行ってまいります。

本プロジェクトは2017年春から約1年をかけて展開、第一線で活躍する本校卒業生をはじめOBOG、在校生等幅広い東京藝大関係者の参画を図ることで「東京藝大のチカラ」、「アーツのチカラ」を集結していきます。

本事業は、実行委員会が主体となり特別に企画した展覧会、演奏会「スペシャルプログラム」、毎年開催されている展覧会、演奏会の中から選定した「公式プログラム」、教員、学生、卒業生などが企画・実施する展覧会、演奏会の中で実行委員会が承認した「応援プログラム」の3つのプログラムで構成。多くの東京藝大関係者があらゆるシーンで「東京藝大のチカラ」、「アーツのチカラ」を発信することで130周年の気運を高めていきます。



新しい芸術大学の在り方を広く世界に発信

本プロジェクトのメインプログラム「スペシャルプログラム」は、東京藝大のこれまで培ってきた資産と人材が一堂に会し、2017年6月を皮切りに約半年をかけて様々なプロジェクトを展開してまいります。これまでの130年の歴史を振り返るのみならず、その業績を現代の視点から改めて見つめ直すとともに、現代における芸術の在り方、未来に向けた芸術の果たすべき役割等を考察する絶好の機会と位置付けます。

また、普段目にすることができない作品や特別公演等を通して、幅広い層に芸術に触れる機会を提供することで、国際的なアーツの発信拠点としての本学をアピールしてまいります。

平成29年

6月

シアター・シンポジウム「光のパイプオルガンを」 ～新しい時代への提言

- 会期 平成29年6月10日(土) 17:00開演(16:30開場)
- 会場 演奏芸術センター(奏楽堂)
- 出演 (演奏芸術センター客員教授)



諏訪内晶子
(ヴァイオリン)



林英哲
(和太鼓)



MALTA
(サクソ)



夢枕獯
(作家・台本)



吉井謙
(天文学者)

- 特別出演
澤 和樹
(東京藝術大学学長・ヴァイオリニスト)

- 進行
松下 功(東京藝術大学副学長)

東京藝術大学学生有志 他

各界で活躍されている演奏芸術センターの客員教授5名が一堂に介して「新たな時代への提言」(仮)テーマに討論を行う。それぞれの経験から、新たな時代に向けた舞台芸術のあり方を提示すると共に実際に総合舞台作品を学生たちも交えて作り上げ、その披露も行っていく。

東京藝大フィルハーモニア管弦楽団 日本チリ国交樹立120周年記念公演



- 会期 平成29年6月20日(火)～30日(金)
- 会場 サンチャゴ市立劇場(6/24,6/25) チリ大学ホール(6/27)

2017年日本・チリ国交樹立120周年を記念し、チリ政府大統領府、サンチャゴ市立劇場、チリ大学、チリ日本人会、チリ商工会議所の呼びかけにより、総勢80名の東京藝大フィルハーモニア管弦楽団による演奏会を開催。

6月24日、25日は、サンチャゴ市立劇場にて、6月27日はチリ大学ホールにて公演。これらの公演においては、チリを代表する作曲家Eduardo Caceres(チリ大学教授)のバリトンとオーケストラのための作品を演奏。また日本の文化を紹介する内容として、世界で活躍する和太鼓奏者・林英哲(本学客員教授)とともに和太鼓協奏曲《天地響應》も披露。その他チリ・アタカマ山東京大学天文台で撮影した星空の映像と共にスメタナ作曲・交響詩《モルダウ》やドヴォルザーク作曲・交響曲第8番、ベートーヴェン作曲・交響曲第7番等も披露する。また、6月23日には、大統領府において現地の青少年オーケストラの指導と共演も予定されている。

7月

藝「大」コレクション パンドラの箱が開いた！

- 会 期 第1期 平成29年7月11日(火)～8月6日(日)
第2期 平成29年8月11日(金)～9月10日(日)
- 会 場 東京藝術大学美術館 本館展示室 1. 3. 4

東京藝術大学は今年、創立130周年を迎えます。これを記念し、大規模なコレクション展を開催します。東京美術学校開設以来、積み重ねられてきた本学のコレクションは、国宝・重要文化財を含む日本美術の名品ばかりではなく、美術教育のための参考品として集められた、現在では希少性の高い品々や、歴代の教員および学生たちが遺した美術学校ならではの作品が多くあることが特徴となっています。



東京藝術大学美術館

本展では、多様なテーマを設けて、すでに知られた名品だけでなく、これまで日の目を見ることの少なかった卒業制作などの作品、模写、石膏像や写真・資料類にもスポットをあてることによって、藝大コレクションの豊富さ、多様さ、奥深さをご紹介します。また、近年の研究成果を展示に反映させ、コレクションに新たな命を吹き込まれていくさまもご覧いただけます。いったい何が飛び出すか、予測不可能な藝「大」コレクション展。どうぞご期待ください。

- 本展覧会の関連イベントとしてシンポジウム、ギャラリートーク等を開催します。

(1)シンポジウム「藝大コレクションと美術教育」

パネリスト:保科豊巳(本学理事)、日比野克彦(本学美術学部長)、秋元雄史(当館館長)
千住博(日本画家)ほか

(2)パンドラトーク～いったい誰が飛び出すか?!～

OJUN(本学教授)、桂英史(本学教授)、小山登美夫(ギャラリスト)、木島隆康(本学教授)
佐藤道信(本学教授)など、多彩なゲストが作品を解説・紹介します。

(3)山口 晃×古田 亮「ヘンな東京藝大」

「戦没学生のメッセージ～戦時下の東京音楽学校・東京美術学校」

- 会 期 平成29年7月30日(日) 11:00～16:30(10:30開場)
- 会 場 東京藝術大学堂奏楽堂 他

東京藝術大学が130周年を迎えるのを機会に、今まであまり光が当てられてこなかった戦時下の芸術、特に戦没学生の作品に焦点を当てる。美術学部の学生についてはかなり調査が進み、長野県上田市には「無言館」という戦没画学生の作品の展示施設も作られている。しかし音楽の場合は、美術と違って形に残らないという面もあり、調査解明が遅れている。それでも昨年、本学奏楽堂で、徴兵されフィリピンで自決した作曲科学生、村野弘二さんのオペラ「白狐」のアリアが演奏されるなど、少しずつではあるが注目を集めつつある。

本学では大学史史料室の橋本久美子学術研究員を中心に資料の調査、蒐集が行われており、この機会に戦没学生の作品を中心に、戦時下における芸術活動を演奏会とシンポジウムによって検証する。シンポジウムでは、学術的に戦没学生を扱うことの意義と史料のアーカイブ化の重要性を確認し、コンサートでは、志半ばで戦地に赴かなければならなかった学生たちの作品を演奏する。彼らの作品は未熟かもしれないが、その一つ一つが遺言ともいえるもので、必ずや強いメッセージを訴えかけてくるに違いない。

【イベント概要】

(1)シンポジウム「学徒出陣と芸術創作」(仮題)

11:00～13:00 於音楽学部第6ホールor 5-109教室

●パネリスト候補:

吉見俊也(東京大学大学院情報学環教授)

西山伸(京都大学教授)

橋本久美子(本学大学史史料室)

檜山哲彦(音楽研究センター)他



学術的に戦没学生を扱うことの意義と史料のアーカイブ化の重要性をテーマに、藝大アーカイブにおける現状報告、他大学の例、現時点での課題などを整理し提示する。野見山暁治氏、大中恩氏といった実際に出征体験を持つ卒業生の貴重な証言も紹介。

(2)トークイン・コンサート「戦没学生のメッセージ」(仮題)

14:00～16:30 東京藝術大学奏楽堂

●出演者

音楽学部教員、学生

●曲目案: 葛原 守 歌曲《犬と雲》《かなしひものよ》

草川 宏 《ピアノソナタ》、歌曲《黄昏》

鬼頭恭一 歌曲《雨》

ピアノ曲《鎮魂歌》《アレグレット》

村野弘二 オペラ《白狐》より第二幕独唱他



オペラ「白狐」の演奏

(メゾソプラノ:永井和子、ピアノ:森裕子)

平成27年7月27日(月)第1回音楽学部オープン
キャンパスにて

演奏だけでなく、作曲家についての解説、曲の批評などトークと演奏が一体となった構成とする。また当時の学生の日記の一節を朗読する、あるいは野見山暁治氏や大中恩氏など、実際に出征経験を持つ方々の貴重な証言も紹介する。現在の学生たちにもトークに参加してもらい、学業半ばで戦地に赴かなければならなかった当時の学生たちの思いを共有してもらおう。

(3)パネル展示、映像展示

開場時から終演時まで、第6ホール前のロビー、奏楽堂ホワイエなどにおいて、楽譜など関連資料の展示を行う。併せて学徒出陣時の写真パネルなどを用い、戦時中の学生生活を解説する。さらには無言館の協力を得て、戦没画学生の作品を映像にして上映する。



東京美術学校



東京音楽学校

9月

シルクロード特別企画展 「素心伝心 クローン文化財 失われた刻の再生」

- 会 期 平成29年9月23日(土)～10月26日(木)
- 会 場 東京藝術大学美術館
- 主 催 シルクロード特別企画展実行委員会 ほか
- 協 力 関係各国大使館(予定)

バーミヤンからシルクロードを経て、その終着地である奈良法隆寺に至るまでの「壁画の道」をたどる特別企画展。本学の持つ特許技術を駆使し、原寸大に復元した各国の壁画を中心に展示、また、関連する国々の絵画・彫刻作品とあわせて紹介することでシルクロードから奈良に至るまでの壁画や美術の変遷を紹介していく。

- 展示壁画作品(予定)
- ・バーミヤン東大仏天井壁画《天翔る太陽神》(アフガニスタン)
- ・キジル石窟207窟《画家窟》 212窟《航海者窟》など(中国・新疆)
- ・敦煌莫高窟第57窟《美人窟》(中国・甘肅) ・唐代壁画(中国・陝西)
- ・高句麗壁画(北朝鮮) ・法隆寺金堂壁画(日本・奈良) ほか

10月

藝大茶会

- 会 期 平成29年10月7日(土)・8日(日)・14日(土)・21日(土)
- 会 場 東京藝術大学正木記念館、大石膏室、大浦食堂、東京国立博物館応挙館 他

茶の湯を通して日本の伝統文化を振り返り、芸術教育や芸術表現の新たな道を模索する機会として開催。4回にわたり主要な流派及び、美術倶楽部が茶席を設けるとともに、藝大ならではの創作茶室での藝大席も設け、併せて、貴重な茶道具や本学教員による創作茶道具等の展示、小演奏会も行う。

- ・茶道家元席(濃茶): 東京藝術大学内(正木記念館)
表千家不審菴、裏千家今日庵、武者小路千家官休庵
遠州茶道宗家 (開催日順)
- ・藝大席(薄茶): 東京藝術大学内(大石膏室)
藝大茶道部
- ・美術倶楽部席(薄茶): 東京国立博物館(応挙館)
東京美術倶楽部、京都美術倶楽部
- ・点心席: 東京藝術大学内(大浦食堂)
吉兆

130周年記念式典

- 会 期 平成29年10月10日(火)
- 会 場 東京藝術大学堂奏楽堂

130周年の記念式典のほか東京藝大NEXT TEN&東京藝大コンポジットロゴ等の発表、130周年記念コンサート等を開催。

12月

130周年記念メディア・アート展示 (仮称)

- 会 期 平成29年12月26日(月)～平成30年1月31日(火)
- 会 場 日本橋高島屋

東京藝術大学映像研究科制作によるアート作品を日本橋高島屋ショーウインドウ等でディスプレイ展示を展開。

美術学部教員作品展 (仮称)

- 会 期 平成29年12月27日(水)～平成30年1月9日(火)
- 会 場 日本橋三越本店本館

日本橋三越本店本館6階美術フロア(特選画廊、美術サロン、アートスクエア、工芸サロン)において、美術学部・美術研究科の専任教員全員による作品展を開催。

平成30年

1月

130周年記念音楽会 (仮称)

- 会 期 平成30年1月6日(土)～平成30年1月8日(月)
- 会 場 東京藝術大学堂奏楽堂

卒業生・修了生、現役の学生・教員からなる邦楽、オルガン・作曲、東京藝大オーケストラの演奏

～2020年東京大会に向けた戦略的グローバル・ネットワークの基盤整備～

●開催の目的

本学は現在23カ国、地域64大学／機関と交流協定を結んでいます。五大大陸全土を網羅しているわけではなく、今後本学は、芸術教育、芸術発信の場において世界を牽引して行く立場を目指しております。

創立130周年を機に、現在交流が行われていない大陸の優秀な大学に呼びかけ、今後の「芸術交流」のあり方について、多角的に前向きに検討を行います。

また、五大大陸の代表が揃うこの事業には、広く国内外の関係機関にも呼びかけ、総合的、副次的な交流が実現することをめざします。

さらに、2020年東京大会には、世界各地から本学を志す優秀な留學生が集まり、また、本学の学生、卒業生が世界各地の芸術活動の場で活躍するため、更なるグローバル化に向けた戦略的ネットワークの基盤整備を行うことを目的として、本サミットを開催します。

●日程

平成30年1月8日(月)～10日(水) 全体会／分科会

●招聘大学(案)

5大陸から優秀な芸術大学(総合芸術大学を中心に)の学長等を招聘。

大 陸	招聘大学(候補)
ユーラシア大陸	ベルリン芸術大学
アフリカ大陸	カイロ大学
北アメリカ大陸	USC(南カルフォルニア大学)、ハーバード大学
南アメリカ大陸	チリ大学
オーストラリア大陸	メルボルン大学

※招聘大学については現在調整中



※写真は120周年「藝大アーツ・サミット」の様子

東京藝大130周年記念「アンバサダー」のご紹介

東京藝術大学130周年記念事業推進に当たっては、現在様々なジャンルの第一線で活躍する本学関係者に「アンバサダー」就任を依頼、本事業に関して様々な方向から支援、助言を行っていただきます。

諏訪内晶子
ヴァイオリニスト



©吉田 民人

野村萬齋
狂言師



松井冬子
日本画家



©MakotoNakagawa

伊勢谷 友介
俳優・アーティスト



「アンバサダー」については今後も藝大関係者を中心に就任要請を行ってまいります。